

# 初任者研修レポート

2020年9月19日(土)~2021年2月28日(日)の約半年間、日振協の日本語教師初任者研修を受けさせていただきました。初任者と銘打ってあり対象は原則3年目ぐらいまでの教師となっておりますが、5年目の私にも大変有意義な研修でした。少し慣れてきた3年目あたりで受講されると本当に意味のあるものにできると感じました。またご自身の授業や日本語教育全般についての知識などに自信が持てないという5年目ぐらいまでの方々にも勧めさせていただきたい良質の研修でした。

## <概要>

◆21世紀型日本語教師としてのレベルアップ

◆オンライン授業、ハイブリッド授業ができる日本語教師になる

という2つのテーマをもとに「実践的能力の育成」を目指しており、以下3つの方法で①②③を身に付けていこうというカリキュラム設定でした。全90単位に設定されており、各項目で70%以上の単位が取得できれば終了証が発行されるというものでした。

① 専門性 → オンライン映像講義で(25単位)

② 対話力 → オンライン集合研修で(35単位)

③ 自立的・持続的な成長力 → オンラインでの自己研修で(30単位)

### ①専門性・・・オンライン映像講義

理論編と実践編にわかれており、オンラインで視聴後、その視聴項目に関する2~3問の問題を解き、正解すれば単位取得となる研修でした。内容は、日本語教育機関の歴史や変遷、留学生の異文化受容・適応について、教材・教具や日本語試験について、目的別指導法、話す・議論の指導法、または統計処理の方法などなど多岐にわたっており、大変勉強になる上、教案や教材作成については実践に則したものが多くありました。

### ②対話力・・・オンライン集合研修

オンライン映像講義の内容をふまえ、半年間に3回、ZOOMによる集合研修が設定されていました。映像講義で学んだことをアウトプットする場とし、実践力の向上を目指すこと、また他校の先生方と交流することで対話力とネットワーキング力を身に付けることを目指した研修でした。

第1回:教師の能力の自己評価

第2回:著作権の知識と利用

第3回:オンライン授業のデザイン

各回ともに事前課題が配布され、それを提出後、ZOOM研修に参加、5人ほどのグル

ープに分かれ、各自がやった事前課題を共有しながら、グループごとに1つのものにまとめ上げ、発表。事後課題としては、そのグループでまとめ上げた物を個人でブラッシュアップし、研修についてのレポートと共に提出するという流れでした。提出したレポートなどは日振教のスタッフの方から評価を受けます。こちらも70%以上の評価を受ければ単位が取得できます。(1回目以外は事前課題の段階からルーブリックの提示がありました。)

一緒に作業をするメンバーにより、議論が活発で楽しく課題をまとめ上げられる回あり、マウントの取り合いになり…なかなか前に進まない回ありで、貴重な経験でした。いつも学生にやってもらっているグループワークとういうものは、皆の性格を把握した上で、教師がよく考え分けた方が有意義にいくであろうことを身をもって学ぶことができました。

#### ④ 自立的・持続的な成長力 …オンライン自己研修

オンラインでの映像講義を視聴後、その講義の内容に沿って、自分の普段の授業を分析、問題点を見つけ自身で改善することができるようになることを目指したものでした。自分の授業を10分ほど撮影し、文字起こし後、分析、それをレポートにまとめ提出。評価は5名の研修を受けている他校の先生がルーブリックに基づき行います。自分もレポート提出後に5名の他校の先生の評価を行います。自分のレポート提出と、他5名の評価をもって単位取得となります。

自分の授業を客観視することはとても難しいことですが、自分の授業を可視化する方法をいくつか具体的に提示してくれますので、それに沿ってスムーズに振り返りと改善を行うことができるようになりました。今は、毎授業ごとに自分の教案をその方法でチェックし、次の授業に生かすようにしています。この方法はとても単純で簡単なものですので、是非紹介させていただきたいと思います。

#### ARCS モデルによる授業・教案の振り返り方法

ARCS(アークス)モデルとは、教育心理学者のジョン・ケラーが1983年に提唱した学習意欲向上のためのもので、学習者のモチベーション向上・維持のため、指導者が取るべき行動を

「注意喚起(Attention)」→「面白そうだ」

「関連性(Relevance)」→「やりがいがある」

「自信(Confidence)」→「やればできそうだ」

「満足感(Satisfaction)」→「満足をした」

の4つ側面で捉えて提示しているものです。頭文字をとりARCSモデルと呼ばれています。

この4つの要素が1回の授業(会話の授業だと2コマ)やその教案の中にちゃんと入っているかということをチェックするいうものです。

例えば会話の授業では、私は以下の項目をチェックします。

- 導入部分で学生の興味をひく仕掛けができているか(A)
- 学習項目は学生の生活のどの場面で使えるのか、具体的にそのつながりを示しているか(R)
- 学習事項を使ってやり取りをすることは学生にとってハードルが高すぎないか、ちゃんとできるように工夫されているか(C)
- 学生をほめて認めてあげているか、または事後課題などで一人でも今日の学習項目の振り返りができるようになっているか(例えば google form などでの宿題など)(S)

自分の教案に、この部分は(A)この部分は(R)と書き込んでチェックしてみると、(A)と(C)の書き込みが多く(R)と(S)は少ないことが多いでした。これは「面白そうだ」「やればできそうだ」と学生に思わせることができているが、「やりがいがある」「満足した」とは思わせられてないということになります。(その通りだと思います。)ですので、教案を立てるとき、授業のときは、学生のR「やりがい」とC「満足感」を常に意識するようになりました。

教案や授業の問題点を簡単に可視化できる方法ですので、もし漠然と悩んでいる先生がいらっしゃいましたら、是非やってみていただければと思います。

このような有意義な研修を受けさせていただき大変感謝しております。誠にありがとうございました。

以上です。

2021年3月19日

水口幸子